

令和6年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

運営委員会

【運営委員長】 小松 憲一（諏訪市社会福祉課）

【副運営委員長】 北原 由紀（ゆらり相談支援センター）

【役割】

- ・協議会の企画、提案を行うとともに、部会や地域関係者からの課題を整理し、検討、調整する。

【開催と協議内容】

第1回 5月15日（水）

- ・基幹のあり方検討委員会について
- ・協議会全体会議について
- ・主任相談支援専門員の運営委員会への出席について
- ・地域生活支援部会の休止に伴う対応について

第2回 7月18日（木）

- ・秋の全体会議について

第3回 9月19日（木）

- ・秋の全体会議の代替として「障がいのある子の先輩保護者の体験談を聞く会（案）」について

第4回 11月14日（木）

- ・「知的・発達障がいのある子の先輩保護者の体験談を聞く会」について
- ・生活介護事業所の不足について

「発達・知的障がいのある子の先輩保護者と話をしよう！」

11月28日（木） 出席者：支援者41名、保護者21名

第1部 3人の先輩保護者の体験談

第2部 先輩保護者との交流会

第5回 R7年1月16日（木）

- ・オアシス評価委員の選任について
- ・事務局会議についての提案

第6回 3月21日（金）

- ・グループホーム連絡会について報告、位置づけについて
- ・基幹のあり方検討について中間報告
- ・自立支援協議会についての検討の場
- ・生活介護事業所の不足について

【全体会議について】

- ・試行的に、特段の協議事項が提案されない限り全体会議は開催しないこととし、今年度においては、11月の全体会議の開催を見送ることとした。
- ・秋の全体会議の代替事業として「知的・発達障がいのある子の先輩保護者と話をしよう！」を初めて開催した。先輩3人がこれまでの苦労や工夫などの体験談を発表。参加した保護者からは、同じ境遇の親たち同士で悩みを打ち明けられてよかった、継続的な開催を希望するという感想が多く聞かれた。
- ・「手をつなぐ親の会」の保護者の高齢化、新規会員の入会がほぼない状態であり、保護者間の横のつながりや情報交換の場の必要性を感じる。

【評価及び今後の課題】

- ・令和7年3月、「諏訪地域における基幹相談支援センターのあり方検討委員会」から、検討委員会の議論の経過や今後の地域の相談支援体制の提案などの中間報告があり、具体的な検討は一旦終了した。今後は、検討を要する課題として、「自立支援協議会のあり方」を検討する場を設置するとともに、令和8年度以降の具体的体制について、行政・事業所で調整し準備していく。
- ・生活介護の不足については、以前から課題が指摘されている。強度行動障害のある人については拠点事業で検討しており、それ以外で生活介護を利用できずに困っている人について、具体的に調査した。この課題の緊急性も高く、検討の場が必要である。

令和6年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

地域生活支援拠点事業推進会議

【会長】 高山 理恵（岡谷市社会福祉課）

【副会長】 藤巻 和彦（はらむら悠生寮）

大澤 英恵（オアシス）

【協議目標】

- ・高齢化や重度化、障がい福祉サービス等のニーズや課題に応じて、求められるサービスが提供できるよう機能強化に向けて、様々な関係者が知恵を出し合い地域づくりをすすめる。

【委員会開催と活動内容】

第1回 全体会 7月16日

- ・強度行動障がいWGの報告
- ・ひとり暮らし支援WGの報告
- ・地域を機能強化していくための仲間づくりについて
地域生活支援拠点の登録事業所の拡大と、緊急時の対応力強化について

第2回 全体会 10月31日

- ・強度行動障がいWGの報告
- ・ひとり暮らし支援WGの報告
- ・諏訪地域の地域生活支援拠点等整備の手引きについて

第3回 全体会 1月14日

- ・強度行動障がいWGの報告
- ・ひとり暮らし支援WGの報告
- ・諏訪地域の地域生活支援拠点等整備について
全国的な状況と他市町村の整備要綱の説明

【強度行動障害WG】

第1回 強度行動障害WG 4月8日

- ・県に広域的人材の選定事務手続きについて
- ・Co配置についてと配置時期について

第2回 強度行動障害WG 6月20日

- ・西駒郷視察について

- ・行政連絡会でコーディネーター配置の提案と予算概算を説明報告
- ・Co の公募について

第3回 強度行動障害 WG 7月31日

- ・法人懇談会について
- ・コーディネーター配置に向けた積算根拠の見直しについて
- ・ワーキングの今後の方向性について

第4回 強度行動障害 WG 9月30日

- ・コーディネーター配置に向けた人件費について
- ・法人懇談会の準備について
- ・生活介護事業所の不足と受け入れ先の確保について
- ・行政との連携強化について

第1回諏訪地域における強度行動障がい支援体制整備に係る懇談会の開催

第5回 強度行動障害 WG 11月27日

- ・法人懇談会の報告
- ・コーディネーター配置までの取り組みについて

第6回 強度行動障害 WG 1月30日

- ・圏域外・県外支援対象者の状況報告
- ・コーディネーター配置に向けた人件費についての報告
- ・研修会についての報告

【強度行動障がい研修会】

第1回	強度行動障がい研修会	5月31日
第2回	強度行動障がい研修会	9月20日
第3回	強度行動障がい研修会	11月22日
第4回	強度行動障がい研修会	2月7日

【ひとり暮らし支援 WG】

第1回 ひとり暮らし支援 WG 4月30日

- ・KJ 法を用いた意見交換
- ① 体験前の意思形成できるまでのサポート
 - ② 一人暮らしのイメージ作り、情報が届かない
 - ③ 実際一人暮らしをした人のサポート

第2回 ひとり暮らし支援 WG 6月18日

- ・ひとり暮らしに向けた意思形成のプロセスの課題とサポート・当事者のイメージ
つくりについて

第3回 ひとり暮らし支援WG 8月6日

- ・支援者の理解と学びについて

第4回 ひとり暮らし支援WG 10月23日

- ・社会資源の活用について

第5回 ひとり暮らし支援WG 令和7年1月7日

- ・ひとり暮らしをする際のどんな社会資源の洗い出し、把握

【評価及び今後の課題】

- ・今年度の緊急時受け入れの実績は6件。内容としては家族間、夫婦間のトラブルから緊急受け入れの利用となった。
- ・強度行動障害児者のWGがスタートし、現在Co配置に向けて積極的に議論が進んでいる。
- ・ひとり暮らし支援WGがスタートをし、ひとり暮らししている人、これから考えている人の支援を考えて行く。
- ・拠点等事業の体制整備を進めるうえで要領の見直しについて検討する必要があるとし、今後事業の実施主体である市町村が中心になり要領改正の検討を進めていく。
- ・拠点の登録事業所を増やしていくための検討も行っていく。
- ・拠点事業等の整備に必要な①相談支援、③体験の場・機会、④専門的人材の確保・養成について、今後も引き続き取り組む。

【決算】

円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
今年度予算	50,000			
研修実施費用		17,960		講師謝礼
合計	50,000	17,960		
当期残額			32,040	

(令和7年3月31日現在)

令和 6 年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

人材育成委員会

- 【委員長】 大澤 英恵 (オアシス)
【副委員長】 中村 修 (ゆらり相談支援センター)
新井 裕子 (富士見町住民福祉課)

【協議目標】

諏訪圏域の相談支援体制を検討し、その体制整備に必要な人材をどう育成するか検討する。令和 6 年度から施行された改正障害者総合支援法、福祉計画の改正、報酬改定を確認しながら必要な体制作りに寄与する

【委員会開催と活動内容】

第 1 回 4 月 1 9 日 (月)

- ・ 令和 5 年度新任職員研修報告
- ・ 基幹あり方検討委員会報告
- ・ 自立支援協議会の在り方について

第 2 回 6 月 2 4 日 (月)

- ・ 長野県 人材育成部会報告
- ・ 長野県 機能強化会議報告
- ・ 新任職員研修について
- ・ 自立支援協議会の在り方
課題をどう吸い上げ、協議会で適切に検討し、対処する方法について

第 3 回 9 月 1 0 日 (火)

- ・ 新任職員研修進捗状況報告
- ・ 主任相談支援専門員推薦について報告
- ・ 県機能強化会議報告 等
- ・ 自立支援協議会の在り方について
事務局会議

第 4 回 1 1 月 2 1 日 (木)

- ・ 主任相談支援専門員の役割・在り方について
- ・ 自立支援協議会の組織について
- ・ 初任者研修フォローアップについて

第5回 1月30日（木）

- ・ 新任職員研修の進捗状況報告
- ・ 主任相談支援専門員推薦について報告
- ・ 長野県人材育成部会報告
- ・ 基幹のあり方検討委員会報告

- ・ 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会の在り方について
地域課題の共有方法や個別課題から地域課題への展開プロセスについて
事務局会議の目的と役割の説明
- ・ 初任者研修フォローアップについて

【評価及び今後の課題】

- ・ 今年度、基幹の在り方委員会が終了した。今後については更なる具体的な基幹の業務についての検討が必要か。
- ・ 協議会の在り方については人材育成員会の中で検討してきたが、参加者も少ないということもあり、人材育成委員会以外の特別委員会を設置することになった。
- ・ 主任相談支援専門員の在り方、委託の在り方についても引き続き行っていく。

【決算】

円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
今年度予算	52,000			
新任職員研修	17,000			参加費
		1,870		事務消耗費
		26,892		資料コピー代
合計	69,000	28,762		
当期残額			40,238	

（令和7年3月31日現在）

令和6年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

権利擁護委員会

- 【委員長】 小川 明子 (茅野市社会福祉課)
【副委員長】 北原 由紀 (ゆらり相談支援センター)

【今年度の協議目標】

- ・ 障害者虐待防止と終結までのプロセスで生じる課題の解決に向けて
- ・ 障害者差別解消支援地域協議会の活用
- ・ 権利擁護に関する情報の周知、研修

【活動内容】

- ・ 第1回 8月23日(金)
長野県自立支援協議会 権利擁護部会の報告
委員会の構成について
11月の県権利擁護研修(集合)のファシリテーターについて
今年度の活動について…委員会内での「虐待防止」「差別解消」WGの立上げ
事業所内での「権利擁護・合理的配慮」等の研修状況について情報交換
- ・ 第2回 12月5日(木)
差別解消地域支援協議会への相談事例について(対応報告)
県研修ファシリテーターの感想
運営委員会の報告
WGごとの検討

【協議内容まとめ】

- ・ 令和6年度は、委員会2回の開催に留まったが、これまでの委員会で「虐待防止」と「差別解消・合理的配慮の啓発」の2点に課題が集約してきている。研修を含め、年数回の委員会開催では動き切れない。委員会内でWGに別れ、虐待防止と合理的配慮について誰に、どう周知していくか検討し、活動につなげていくことを確認した。
- ・ 県の権利擁護研修参加者や、ファシリテーターを務めた委員からの「“通報”という言葉が行政に対するハードルを高くしている。“相談”という形から入り、話を聞く中で通報として対応していくようにする等、行政側にも工夫を求めたい」等の意見を、いかに行政に伝えていくかは虐待防止や差別解消の動きにつながり、支援者が相談しやすい環境に持って行くことは、支援者支援にもつながるという認識を共有した。
- ・ 諏訪地域障がい者差別解消地域支援協議会の周知は、令和4年度のチラシ配布のみとなっており、ホームページやガイドブックへの掲載もない。また、企業等からの相談を受ける、すわーくらいふが相談先として掲載されていない等、

現状から見て不備な点があることを確認した。

【評価及び次年度の課題】

- ・令和6年度は日程調整が難しく、活動自体が不活発に終わってしまったため、次年度は当初の会議で日程調整し、研修を含め計画的に活動を行っていく。
- ・地域生活支援部会の参加事業所から「自事業所で行える虐待の研修があれば」との話があったが、研修を行えない理由が「忙しいから」であったり、入所と生活介護など、着目すべき点異なる部署が同じ研修に参加するケースも見受けられる。他の部会との共同開催等、広い視野での慣習も必要だが、基本的な内容を再確認する機会を設ける必要がある。
- ・諏訪地域障がい者差別解消地域支援協議会の周知を図るにあたり、内容を見直すと共に、情報へのアクセスと配布先について検討が必要。

【決算】

円

科目	支出	摘要
今年度予算	50,000	
研修会費用	0	研修会を開催できなかったため支出なし
当期残額	50,000	

療育支援部会

【部会長】 齋藤 祥子 (信濃医療福祉センター 療育コーディネーター)

【副部会長】 中條 真一 (長野県 諏訪養護学校 教育相談)

倉坪 奈々 (岡谷市社会福祉課)

【今年度の協議目標】

- ・ 諏訪圏域の子育て期の課題解決の方向の検討
- ・ 支援者の知りたい情報を把握し、情報提供と研修会の企画

【部会開催と活動内容】

☆療育支援部会

第1回 4月16日(火)

- ・ 新体制(2年間)確認、自己紹介、報告(自立支援協議会について、組織)
- ・ 令和5年度活動報告書の検討
- ・ 第3期障害児福祉計画について(福祉計画と協議会療育支援部会との連動表)
- ・ 今年度の活動計画の検討(5回の部会、スキルアップ研修会、支援マップ更新)

第2回 7月4日(木)

- ・ 報告(協議会・全体会議の概要、長野県療育部会計画の概要)
- ・ 今年度の計画(確認)、スキルアップ研修の企画・推進
- ・ ミニ研修:「こども家庭センター」(こ家庁からの役割、圏域の状況、意見交換)

☆研修 8月28日(水)

- ・ 演題:「こども家庭センターに臨む姿を 事例を通して考える」
- ・ 講師:信濃医療福祉センター 地域療育支援室 訪問支援員 工藤 哲也 氏

第3回 9月17日(火)

- ・ 報告(第3回長野県療育部会の内容、スキルアップ研修会のアンケートまとめ)
- ・ ミニ研修:「不登校児童生徒支援」
①学校の定義、②部会員からの現状と課題、③行政相談窓口、
④事例検討(諏訪養護学校からの事例提供)

第4回 11月29日(金)

- ・ 講話:「学齢期の支援について(発達支援、家族支援、地域支援)」
講師:この街相談支援センター センター長 井上 純一 氏
- ・ グループワーク(5つのグループに分かれての協議)

第5回 2月18日(火)

- ・ 報告(第5回運営委員会からの要望、第4回長野県療育部会の内容)
- ・ 今年度の反省(アンケートのまとめ、出席者の一言ずつ)
- ・ 来年度の方向・計画(多岐にわたる課題から絞って計画、三役一任)

【協議内容のまとめ】

- スキルアップ研修は、「こども家庭センターに望む姿を事例を通して考える」と題し、こども家庭センターの設置の背景や圏域の状況から求められる役割について講演をしていただいた。参加者からの感想として「継続的な支援や見守りの必要性が分かった」、「諏訪地域の様々な課題があることが伝わった」などがあり、好評だった。
- ミニ研修は情報提供の場として3回実施することができた。グループ討議を行うことで様々な立場、職種の部会員と意見交換ができる場をもつことができた。
- 「先輩保護者の話を聴く会」について報告、協議を行った。保護者が学ぶ機会や保護者への情報を伝える必要性があることが明らかになった。

【評価及び今後の課題】

- スキルアップ研修やミニ研修を行うことで部会員への情報提供や学びの場を作ることができた。来年度も引き続き行っていきたい。
- 課題は多く出されるが、解決に至らないものが多い。課題について情報を共有することは大切だが、部会でできることは何かを検討し、テーマをしぼって取り組むことも必要だと思われる。
- 「医療受診1年待ちが常態化する中、幼児期からの適切な療育支援体制をどう構築していくか」が圏域の課題としてあげられている。
- 保護者の学ぶ機会や情報提供についてはどのような形が適切か検討していきたい。

【決算】

円

科 目	収 入 額	支 出 額	差引給額	摘 要
今年度予算	50,000			
スキルアップ研修費		22,314		講師謝礼、交通費 資料色印刷代等
合 計	50,000	22,314		
当期残金			27,686	

(令和7年3月31日現在)

令和6年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 専門部会 報告書

就労支援部会

【部会長】 小林 浩人 （諏訪公共職業安定所 職業指導官）

【副部会長】 武居 正剛 （諏訪市役所 社会福祉課）

吉田 由香里（就労継続支B型事業所ソレイユ）

【今年度の協議目標】

- 本年度の役員体制は、副部会長2名体制（行政1名、B型職員1名）
- 第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画の成果目標数値を意識した一般就労への移行支援を多角的に支援
- 福祉的就労、一般就労は問わず、「働く」をあきらめさせない活動をメインテーマとし、「働く」をサポートする仕組みづくりを検討した
- 「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直し（障害者就労支援・就労選択支援）」に係るワーキンググループを立上げ検討を行うとともに情報共有を図った

【部会開催と活動内容】

令和6年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 就労支援部会 事業計画

日 時	開 催 場 所	内 容	テ ー マ
R6. 4. 22（月）	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	協 議	本年度事業活動計画等について
R6. 6. 26（水）	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	学習会	働く、働く準備を支える座談会
R6. 9. 4（水）	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	学習会	採用担当者との座談会
R6. 12. 9（月）	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	学習会	事業所紹介、就労選択支援に係る学習会
R7. 2. 4（火）	諏訪市総合福祉センター3階交流ひろば	協 議	本年度事業活動の振り返り

【協議内容のまとめ】

- ・ R6. 4. 22（月）13：30～ 協 議 本年度事業活動計画等について
- ・ R6. 6. 26（水）13：30～ 学習会 「働く、働く準備を支える」座談会参加者 66名
- ・ R6. 9. 4（水）13：30～ 学習会 採用担当者との座談会 企業3社 参加者 89名
- ・ R6. 12. 9（月）13：30～ 学習会 事業所紹介、就労選択支援WG報告 参加者 36名
- ・ R7. 2. 4（火）13：30～ 協 議 本年度事業活動の振り返り

※それぞれの活動においてはアンケートを取り部会内でフィードバックを行った

【評価及び今後の課題】

- アンケート結果により次年度も事業の継続希望の意見が多く寄せられた。
- 仕事をしたいと願う障がいのある方が安心して就労し働き続けるため、社会の仕組みや取り組みを課題にかかげたい。

【決算】

円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
今年度予算	50,000			
座談会		32,341		謝金他 ○6/26 ; ジョブコーチ制度に係る勉強会、事例発表/大和電機工業(株)、すわーくらいふ ○9/4 ; 採用担当者との座談会 / (株)ディスコ、京セラ(株)長野岡谷工場、(株)共進精工
合計	50,000	32,341		
当期残額			17,659	

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

相談支援部会

【部会長】 笠原 久美子（オアシス）

【副部会長】 森田 美理 （Social Lab Globe）

中村 修 （ゆらり相談支援センター）

小口 亜耶 （茅野市社会福祉協議会 相談支援事業所）

清水 利恵 （茅野市北部保健福祉サービスセンター）

【協議目標】

諏訪圏域の相談支援体制の整理を行い、充実・強化のための取組について協議する。
相談支援専門員が考える地域の課題の収集と検証を行い、必要な仕組みづくりを協議する。

【部会開催と活動内容】

第1回 令和6年5月7日（火）

- ・令和5年度部会報告と令和6年度部会計画について
- ・相談支援業務に関する手引きの説明
- ・令和6年報酬改定についての説明

第2回 令和6年7月12日（木）

- ・今まで出ていた課題を整理し報告
- ・困難事例に対してどのような取り組みができるか、システム作りをGWで話し合う

第3回 令和6年9月9日（月）

- ・第2回の部会で困難事例を検討する場はどんな形があるか話し合った内容のまとめ報告
→GSV 出張 GSV、市町村相談員の集まる場、初任研のフォローアップ（OJT）、定期サロン、個別のスーパービジョンといった方法が出た
- ・前回の課題の整理報告書のまとめから、相談員の資質、システム、資源についての報告をした。

GWで優先順位を決め協議方法を検討し、第4回の部会で話し合う内容を決めた。

第4回 令和6年11月25日（月）

- ・「個別支援計画について」講義を受け、サービス等利用計画と個別支援計画の違いの理解を深め、自分たちの計画についての確認と振り返りを行った

第5回 令和6年1月15日（水）

- ・個別支援計画についての意見交換で出た課題を自分だったらどのように解決するかGWで意見交換をした。
- ・地域課題の整理・まとめより（第3回の部会で出した資料）を使い、諏訪圏域の基幹センターに対して何を求めていくかについてGWで意見交換を行った。

第6回 令和7年3月6日（木）

- ・今年度のまとめ、来年度の活動について
- ・基幹センターに対して何を求めていくかについて意見交換したものの整理を基に3層の説明、現在オアシスで取り組んでいる事・体制などの説明、あり方検討会の報告

【協議のまとめ】

- ・前年度部会内で出た意見・課題を整理して、部会員で優先順位を決め1つずつ解決方法を検討した

【評価および次年度の課題】

- ・前年度部会内で出た意見・課題を整理して、部会員で優先順位を決め1つずつ解決方法を検討した結果、相談員の資質の事では、サービスの活用・加算との連携、個別支援計画との関係は協議済
システム（体制の事）では、困難事例の検討の場をどうしていくかは協議済、基幹センターに何を求めているかは継続協議となった。
- ・次年度は今年度のまとめた地域課題の整理表の中でまだ、取り組んでいない課題について優先順位を決め、引き続き協議をしていく事になった。

【決算】

円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
令和6年度部会費	30,000			
合計		0		
当期残額			30,000	

医療的ケア部会

【部会長名】	笠原 久美子	(オアシス)
【副部会長名】	佐久 さやか	(原村保健福祉課)
	今井 由美	(相談のポケット)

【部会の位置付け】

諏訪圏域の医療的ケアを必要とする方々において、保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関が連携を図るための協議の場として、医療的ケア児等支援圏域連携推進会議が医療的ケア部会に設置される。

【協議目標】

医療との連携を図り、重症心身障がい児・者への支援の充実を目指す。

【部会開催と活動内容】 *医療従事者の部会員が多いためハイブリッド開催をする

第 1 回 4 月 23 日 (火)

1. 令和 5 年度医ケア部会報告書、令和 6 年度医ケア部会計画書の確認
2. 就園・就学時の課題、発達支援についての課題、卒後の居場所についての課題
レスパイトについての課題についてワールドカフェ形式で意見交換を行った。

→当事者家族からも意見を聞いてみたらどうか？と意見があり、次回の部会で当事者家族と部会員との座談会の機会を設ける事になった。

第 2 回 7 月 19 日 (金)

- ・当事者家族との座談会

当事者家族 2 人 部会員 11 人 普段感じている事を皆で共有する。

第 3 回 10 月 4 日 (火)

- ・第 2 回部会で行った、当事者家族との座談会の内容報告内容から課題の抽出をし今後、部会で取り組んでいく活動を GW で検討する
座談会で当事者家族より出た、地域で暮らしている他の当事者家族の意見も聞いてみたいと意見があり 11 月末まで当事者家族へアンケートを行う。

第 4 回 令和 6 年 2 月 27 日 (火)

- ・部会員から出てきた課題、座談会で当事者家族から出てきた課題、当事者家族アンケートから出てきた課題を整理し部会員へ報告。

その中で共通して見えてきた、窓口の明確化をどのようにしていけばいいか、GW に分かれ意見交換を行う。

【評価】

- ・初めて、部会員と当事者家族との座談会を開催した。その中で、当事者家族の思いを確認する事ができ、部会員の感じている地域課題とのすり合わせができた。
地域に何が必要なのか考えるきっかけとなった。

【今後の課題】

- ・就園・就学時の課題、発達支援についての課題、卒後の居場所についての課題
レスパイトについての課題で出た意見と座談会で出た意見の中で、共通だった課題がどこに相談すればいいかわからないと言った相談窓口の明確化が出てきたため、
次年諏訪圏域版相談窓口シート作成について協議を進めていきたい。

【決算】

円

科目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
R5 年度部会費	30,000			
合計	30,000	0	30,000	
当期残高			30,000	

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

令和6年度 諏訪地域障がい福祉自立支援協議会 報告書

精神障がい者の暮らしを考える部会

- 【部会長】 今井 慎二 (下諏訪町保健福祉課)
【副部会長】 信田 奈美江 (上諏訪病院)
伊藤 英次 (精明学園)
荒井 千恵 (オアシス)

【目的】

諏訪圏域における障害者（児）福祉計画に位置付けられた「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて必要な事項について協議検討をし、推進する。また、生活だけでなく就労や教育など広い分野を協議事項とする。

【部会開催と活動内容】

第1回 5月10日

- ・令和5年度部会報告と令和6年度部会計画について

第2回 7月1日

- ・意見交換 研修会と事例検討の内容について

第3回 9月6日

- ・「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムを考える研修会」
講師：佐久大学人間福祉学部 江間 由紀夫先生 38人出席

第4回 11月5日

- ・研修会を踏まえて、諏訪圏域で取り組むべき課題について

第5回 1月27日

- ・令和6年度精神障がい者地域生活支援研修会
事例検討「地域での生活に課題を抱える困難事例」
講師：相談支援事業所 nakara 春日 聡氏

第6回 2月7日

- ・R6年度のまとめ

【協議内容のまとめ】

・今年度の部会では協議目標を再度検討し直し、①地域住民の理解②地域移行・地域資源の情報の集約・発信③他機関・多職種が具体的なケース検討ができる場の創出とし、年6回部会を行った。その中で、にも包括について更なる学習を深めるため佐久大学の江間先生の研修会を開催した。その研修を受け、諏訪地域における「にも包括」を構築していく上での課題を抽出した。他機関・多職種が関わるケースとして春日氏による事例検討の研修会を行った。これらの研修・協議を基に来年度以降、取り組んでいく課題を更に整理した。

【評価及び今後の課題】

・諏訪圏域において取り組むべき課題について、部会員全員で検討した上で「他機関・多職種・地域住民の理解・連携促進」「地域資源などの情報の集約・発信」「当事者、家族の居場所となるようなつながりの場」という3つのテーマを抽出し、協議検討が必要であるという共通認識を深めることができた。諏訪地域で取り組んでいく課題が明確になったので、来年度は優先順位を決めて具体的な検討に入りたい。

【決算】

円

科 目	収入額	支出額	差引金額	摘 要
今年度予算	50,000			
研修会費		34,127		9/6 研修会講師謝礼
合計	50,000	34,127	15,873	
当期残額			15,873	

(令和7年3月31日現在)